

# 教職課程履修学生への指導体制構築 － 2021 年度の実践報告 －

小 寄 麻 由

## はじめに

本学の教職教育センター教職課程では、教職課程履修学生に対する指導を強化することを目指して 2019 年度に改革案を策定し、2020 年度から具体的に実践を開始したが、コロナ禍による遠隔対応や社会の変化により試行錯誤が続いた<sup>1</sup>。また学校教育に急速に広がった GIGA スクール構想に、大学の教員養成課程も対応する必要性に迫られた<sup>2</sup>。本稿では 2021 年度の実践内容について述べる。なお、本稿で「サポート室」とは本学教職教育センター教職課程に置かれている教職教育サポート室、「指導員」とはサポート室に曜日ごとに交替で勤務している教職教育サポート室指導員を指す<sup>3</sup>。

## 第 1 章 2021 年度 教職教育センター教職課程の実践

### 第 1 節 2021 年度に取り組むべき課題

2019 年度に策定した改革案を「A 教職履修学生への指導に関するもの」「B 環境整備に関するもの」「C 教職課程に関するもの」に分類したうえ、「A-8 ICT 活用授業の指導」「B-7 ICT 環境の整備」「C-4 ICT 活用指導能力育成に向けた実践」を新たに追加し（表中\*を付記している）、表 1～3 のように 2021 年度の実践を整理した。これは GIGA スクール構想を受けて、学生の ICT 活用指導力の育成が不可欠となってきたためである<sup>4</sup>。

表 1. A 教職履修学生への指導に関するもの

	内容	2021 年度の具体的な実践
A-1	指導員の共通理解	会議体や回数の検討、内容の精選 遠隔会議システムなどの積極的な利用
A-2	指導員によるメンター制度	3、4 年次生に対して年度当初から実施
A-3	教職課程履修学生向け講座の実施	講座参加数増への工夫、実施時期の検討、内容の充実
A-4	広報活動の実施	定期刊行物として 1 回発行
A-5	教員採用試験受験者支援	教員採用試験に対応した指導、受験報告の蓄積
A-6	教職課程履修学生自助組織の支援	指導員による勉強会を実施し自助組織に繋ぐ
A-7	卒業生教員の会の発足	検討する
*A-8	ICT 活用授業の指導	学習支援システムを利用した模擬授業練習の実施

表 2. B 環境整備に関するもの

	内容	2021 年度の具体的な実践
B-1	模擬授業のできる教室の設置	KPC2 のサポート室、学習室の利用促進
B-2	サポート室の環境整備	学習指導要領改訂に合わせた教科書発注
B-3	相談員の出勤時間帯の変更	学生の利用実態に合わせて指導員の勤務を検討
B-4	教育委員会との提携強化	神戸市教育委員会の学内説明会年 1 回、兵庫県教育委員会の学内説明会年 2 回、神戸市立学校学生スクールサポーター制度の活用推進
B-5	教職教育年間行事の見直し	年間行事の確定、関係者周知、広報活動
B-6	指導員・教職担当教員の共通理解	教職教育サポート室懇談会の開催 教職教育センター所長による指導員との面談実施
*B-7	ICT 環境の整備	必要な機器やシステムの購入に向けて予算化

表 3. C 教職課程に関するもの

	内容	2021 年度の具体的な実践
C-1	高等学校社会科教員採用試験へ対応したカリキュラム改訂	学部長懇談会への上奏
C-2	教職課程希望者の絞り込み	検討する
C-3	神戸学院大学附属中学校・高等学校との連携強化	ICT 活用授業の紹介、模擬授業練習会などに、神戸学院大学附属中高の現職教員を招聘
*C-4	ICT 活用指導能力育成に向けた実践	教職課程の授業や教職教育センター主催の教員採用試験対策講座などで勉強会を開催

第 2 節で実践の詳細を報告するが、表 1～3 の内容と対応させて述べていく。

## 第 2 節 実践の詳細

### 1. 「A 教職履修学生への指導に関するもの」に係る実践

#### (1) 様々な遠隔対応

2021 年度は、with コロナのなか、どのように改革を実践していくのか、という思考が求められた。教職履修学生への連絡や採用試験対策講座の申し込みなどは 2020 年度に引き続き、教育支援サービス manaba を積極的に活用することにした。manaba とは、教職履修学生向けに本学が導入しているクラウド型教育支援サービスである<sup>5</sup>。

#### (2) 「A-1 指導員の共通理解」

表 4 のような日程と内容で、全学教育推進機構教職課程の専任教員と指導員が、遠隔会議室システムを使用して具体的な打合せを行った。名称は「教職教育サポート室懇談会」とした。

表4. 教職教育サポート室懇談会 年間の日程と主な議題

開催日	主な議題
4月2日(金)	年間スケジュール、前期の活動内容、メンター制度詳細、面談の詳細、「教員採用1次試験対策講座」詳細などの確認
7月26日(月)	前期の活動の反省、「教員採用2次試験対策講座」詳細確認
9月16日(木)	後期の活動内容、教員採用試験受験学生の可否、「基礎学力講座」詳細などの確認
1月28日(金)	「教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会」の詳細確認、本年度の反省

## (3)「A-2 指導員によるメンター制度」

教職を履修している3年次生と4年次生に対して年度当初からメンター制度を実施した<sup>6</sup>。履修登録後、学生と指導員をマッチングさせた名簿を作成し、担当指導員と面談期間を学生にメールで通知した。4年次生は4/8(木)から、3年次生は5/24(月)から原則対面で面談を行った。大学が遠隔授業期間中の面談はオンラインで実施し、遠隔申請者がいれば個別対応した。

## (4)「A-3 教職課程履修学生向け講座の実施」

この項目については第3節で詳細を述べる。

## (5)「A-4 広報活動の実施」

12月中旬に教職教育センター広報誌 vol.3 を6,000部発行した。コンセプトは次の4点である。

①2021年度の教職教育センターの活動について情報を提供し、周知することによって、教職履修学生のサポート室の利用を促し、勉学への意欲を喚起したり、悩みの相談を円滑に行ったりすることに繋げる。2020年度12月～2021年度11月までの活動や情報を提供することによって、来年度の教職教育センターの活動への参加を促す。③教職教育センターの活動に積極的に参加している学生や、教員採用試験に合格した学生、教育大学大学院に進学した学生を紹介することにより、具体的なモデルを示し、教職履修学生の意欲を促進するとともに教職に向けて希望を持って取り組ませる。④大学教職員、特に教職関係教職員にも教職教育センターの活動について情報を提供し、理解と協力を求める。

記事内容は、サポート室の支援内容や教員採用試験対策講座の様子などで、年度末に行う各学年の教職ガイダンスや4年次生向けの教育実習事前指導で配布した。

## (6)「A-5 教員採用試験受験者支援」

## ①教員採用試験受験予定者に対するサポート

支援すべき学生の人数や個人の特定のため、4年次生に対して教員採用試験を受験するかどうか、manaba上のアンケートで提出させた。教職履修学生75名中、アンケートの回答は25名にとどまった。アンケートには回答しなかったが受験する、という学生もおり、正確な人数は把握できなかったが、確認できた受験予定者は29名であった。希望する学生には、受験地選択の相談、願書の書き方、願書用小論文添削指導などを行った。

## ②教育実習に向けての指導

教育実習に行く前に実習中に扱う教材の研究や指導法の助言などを行った。なかには教育実習準備のため毎日のようにサポート室に通う学生もいた。

## ③兵庫教育大学大学院進学指導

本学には兵庫教育大学大学院進学のための大学推薦制度がある。希望者には志望理由書の書き方指導、面接練習などを行った。8月受験に4名、3月受験に1名の学生が申請し学内審査を経て受験し、全員の進学が決まった。なお、来年以降の受験生の指導に生かすため、受験した学生には、面接内容などをレポート提出するよう協力を依頼した。

(7)「A-6 教職課程履修学生自助組織の支援」

指導員による勉強会が定期的実施されるようになり、その会に集まってくる学生が増えてきた。この流れが学生の自助的な学習の会につながる可能性がある。

(8)「A-7 卒業生教員の会の発足」

個人情報提供を学生に依頼する必要性やその管理方法など検討すべき点が多い。卒業後講師として教壇に立つ学生も増加しており、必要性を感じながらも実践にはいたらなかった。

(9)「A-8 ICT活用授業の指導」

この項目については第4節で詳細を述べる。

## 2. 「B 環境整備に関するもの」に係る実践

(1)「B-1 模擬授業のできる教室の設置」

2020年度9月、KPC2学習室に黒板を設置したこともあり、模擬授業練習が容易になった。サポート室、学習室を常時利用して自習をしたり、指導員の指導を受けたりする学生が現れた。

(2)「B-2 サポート室の環境整備」

指導員と専任教員で、サポート室に配架すべき書籍の選定を行い、教務教職担当事務職員に依頼して発注を行った。2022年度は高校で新学習指導要領が実施されるため、指導員の協力のもと、高校の新課程用教科書を購入するためのリスト作りも行った。

(3)「B-3 サポート室相談員の出勤時間帯の変更」

学生のサポート室利用実態に合わせて、指導員の勤務時間を検討した。

(4)「B-4 教育委員会との提携強化」

本学に教育委員会採用担当が来校しての説明会は、以前から神戸市教育委員会が行っていたが、兵庫県教育委員会にも来校しての説明会を依頼し、年2回実施した。また神戸市が行っている学生スクールサポーター制度参加者は2020年度3名だったが、2021年度は25名に増加した<sup>7</sup>。

(5)「B-5 教職教育年間行事の見直し」

これまでの行事日程や内容を改善し、計画通りに実施できた。これによりほぼ年間のサポート室行事が確定した。来年度以降は事前に年間の日程を組むことができると思われる。

(6)「B-6 指導員と教職担当教員との共通理解」

教職教育センターの打合せは原則遠隔実施とし、表5のようにメンバーや回数を編成し直した。ただし打合せの内容によっては参加者を追加するなど柔軟に対応した。また教職教育センター所長が年1回指導員と面談し、個人の意見などを聞く場を設けた。

表5. 教職教育センター教職課程の関係教員 年間打合せ

打合せ名	参加者	回数
①教職教育センター打合せ	センター所長、副センター長、特任講師2名の計4名	月1回

②教職教育サポート室等協議会	センター所長、副センター長、特任講師2名、教職関係教員4名、教職教育サポート室指導員10名の計18名	年2回
③教職教育サポート室懇談会	特任講師2名、教職教育サポート室指導員10名の計12名 オブザーバーとして、センター所長、センター副所長、教務教職担当者も入る	年2回

(7)「B-7 ICT環境の整備」

この項目については第4節で詳細を述べる。

**3. 「C 教職課程に関するもの」に係る実践**

(1)「C-1 高等学校社会科教員採用試験へ対応した科目改訂」

文部科学省の通達により、本学で「中一種免（社会）」「高一種免（公民）」のみの認定を受けている学科等が、「高一種免（地理・歴史）」の認定を受けている学科等から不足部分の科目を共通開設とすることで認定を受けられる可能性が出てきた<sup>8</sup>。また「高一種免（公民）」のみに認定を受けている学科が「中一種免（社会）」の免許を取得できる可能性も出てきている。教職教育センター所長が学部長懇談会への上奏を行い、科目改訂への理解を求めた。

(2)「C-2 教職課程希望者の絞り込み」

教職課程を履修するために条件をつけ、学生の資質向上や学習意欲向上に繋ぐという考え方から絞り込みを実施するかどうか検討を行った。例えば2年次進級の段階の成績評価によっては、それ以降の教職課程履修を不可とするという方法である。教職課程履修学生の資質向上が見込まれる一方、教員免許取得の道を狭めることにも繋がるため、現在のところ行わない方向で結論が出た。

(3)「C-3 神戸学院大学附属中学校・高等学校との連携強化」

教職課程の授業や、模擬授業練習会などに、神戸学院大学附属中高の現職教員を招聘した。

(4)「C-4 ICT活用指導能力育成に向けた実践」

この項目については第4節で詳細を述べる。

**第3節 「A-3 教職課程履修学生向け講座の実施」詳細**

教職教育センター主催の特別講座として「教員採用試験1次対策講座」「教員採用試験2次対策講座」「基礎学力養成講座」「教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会」の4講座を開いた。専任教員が企画し、指導員とともに実施した。原則対面実施としたが、遠隔参加者に対応することもあった。これらの講座への参加は学生の希望による自主的な申し込みによる。

**1. 教員採用試験1次対策講座**

本年度教員採用試験を受験予定の4年次生および科目等履修生を対象に、遠隔会議システムを使った遠隔指導と対面での指導を並行して実施した。指導内容は、1次試験の内容確認、受験の心構え、集団討議、個人面接、集団面接、場面指導などである。実施日と参加人数は以下の通りである。なお対面指導の1回目、6月18日は、KPCの参加者が1名だったため、指導の一部をKACと遠隔会議システムで繋ぎ合同練習とした

- ・遠隔指導 6/14～7/2 12:45～13:45 KPC、KAC 合同で毎日実施 利用者数 のべ29名
- ・対面指導 6月18日（金）KPC 1名、KAC 5名



6月24日(木) KPC 4名、KAC 6名

7月2日(金) KPC 3名、KAC 9名 時間はいずれも 16:00～18:00

## 2. 教員採用試験 2次対策講座

2～4年次生および科目等履修生を対象に、「教員採用試験2次対策講座」を実施した。実施内容は、2次特訓講座（「個人面接」「場面指導」「模擬授業」「実技試験」など）小論文特訓講座、ICTを使った模擬授業練習である。模擬授業を行うのは、本年度の教員採用1次試験を通過した学生が優先であるが、来年度受験予定の学生も希望があれば模擬授業を行った。8月6日(金)、9日(月)、10日(火)の3日間実施する予定だったが、2日目は警報発令のため実施できなかった。参加人数は以下の通りである。

- ・8月6日：20名、8月10日：16名 のべ36名
- ・4年次生：10名、3年次生：11名、2年次生：2名、卒業生：2名、 計25名

## 3. 基礎学力養成講座

2～4年次生および科目等履修生を対象に、「基礎学力養成講座」を実施した。講座の目的は、今後教員採用試験を受験する学生の基礎学力を養成し1次試験合格に繋げること、この講座への参加をきっかけにサポート室や来年度以降の講座への参加を促すことの2点である。実施日は国語と英語が両キャンパス3日、社会が4日で、いずれも17:30～18:30の1時間である。参加人数は以下の通りである。専門教科の内容のみならず他の教科の知識量も増やし、1次試験や面接に対応できるように、という考えから、学生自身の教科だけでなく、他教科も受講できるようにした。参加人数は以下の通りである。

英語：KPC3名、KAC9名、社会：KPC13名、KAC26名、国語：KPC0名、KAC51名 のべ102名

## 4. 教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会

2～4年次生および科目等履修生を対象に「教員採用試験対策講習会及び模擬授業練習会」を実施した。内容は教員採用試験対策講演（外部講師または指導員による講座）、ICT活用授業勉強会（現役中学校・高等学校教員によるICT活用授業の講演）、模擬授業練習の3つである。

- ・実施日時：2月15日(火)、16日(水)、17日(木) 10:00～15:30
- ・場所：KPC2 教職教育サポート室、学習室、4階演習室
- ・参加人数：2～4年次生、科目等履修生、卒業生 合計54名

## 第4節 ICT活用指導力育成に対する対応

### 1. 教職課程におけるICT活用指導力の育成

GIGAスクール構想が進み、教員のICT活用指導力が求められるなか、大学の教職課程でもICTを活用する授業について教授していく必要に迫られた。教職教育センターは、㈱ロイロが提供している教育支援アプリ「ロイロノート・スクール」を導入し、教員採用試験対策講座で勉強会を開くとともに、一部の教職課程の授業でも使用していくことにした<sup>9</sup>。

### 2. タブレット端末を使った模擬授業

実際にロイロノートを使用して授業を展開しておられる先生を「模擬授業練習会」の講座に招聘し、タブレット端末を使った授業を行っていただいた。

## 第2章 教職教育センター教職課程 2021年度の成果

### 第1節「A 教職履修学生への指導に関するもの」

#### 1. サポート室の活性化

##### (1) 教職教育センター教職課程と指導員との連携

教職教育センター教職課程に係る教職員と指導員が連携して活動を進め、予定していた対策講座や相談活動を全て実施できた。どの対策講座も昨年度を上回る人数の学生が集まった。

##### (2) サポート室の学生利用

サポート室来室学生数をまとめると表6の通りである<sup>10</sup>。これまでも指導員は業務日誌に来室者の記録を手書きで行っていたが、2020年度後期から、利用状況を細かくデータで記録し統計をとった。2020年度、2021年度ともコロナ禍で遠隔を余儀なくされた時期が多かったため、利用者数は大きく減ったが、徐々に回復してきている。

表6. 2021年度 教職教育サポート室利用状況 相談及び指導内容別

		前期合計						後期合計						令和三年度合計					
		小計		KAC		KPC		小計		KAC		KPC		小計		KAC		KPC	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	教採対策	208	38.3%	118	32.3%	90	50.6%	196	27.4%	140	27.2%	56	28.0%	404	32.1%	258	29.3%	146	38.6%
2	面接練習	77	14.2%	69	18.9%	8	4.5%	11	1.5%	11	2.1%	0	0.0%	88	7.0%	80	9.1%	8	2.1%
3	教育実習	80	14.7%	51	14.0%	29	16.3%	13	1.8%	5	1.0%	8	4.0%	93	7.4%	56	6.4%	37	9.8%
4	模擬授業	32	5.9%	32	8.8%	0	0.0%	189	26.4%	144	28.0%	45	22.5%	221	17.6%	176	20.0%	45	11.9%
5	メンター面談	24	4.4%	17	4.7%	7	3.9%	2	0.3%	2	0.4%	0	0.0%	26	2.1%	19	2.2%	7	1.9%
6	大学院対策	21	3.9%	13	3.6%	8	4.5%	4	0.6%	4	0.8%	0	0.0%	25	2.0%	17	1.9%	8	2.1%
7	進路相談	18	3.3%	16	4.4%	2	1.1%	59	8.3%	37	7.2%	22	11.0%	77	6.1%	53	6.0%	24	6.3%
8	その他相談	61	11.2%	38	10.4%	23	12.9%	76	10.6%	53	10.3%	23	11.5%	137	10.9%	91	10.3%	46	12.2%
9	自習	22	4.1%	11	3.0%	11	6.2%	59	8.3%	33	6.4%	26	13.0%	81	6.4%	44	5.0%	37	9.8%
10	基礎力充実講座							106	14.8%	86	16.7%	20	10.0%	106	8.4%	86	9.8%	20	5.3%
	総計	543	100.0%	365	100%	178	100%	715	100%	515	100%	200	100%	1258	100%	880	100%	378	100%
形態	対面	469		297		172		678		478		200		1147		775		372	
	遠隔	74		68		6		37		37		0		111		105		6	

#### 2. 2021年度教員採用試験合格実績

2021年度、教職を履修していた4年次生および科目等履修生は75名で、教員採用試験の合格実績および教育大学大学院進学実績は以下の通りである。(2022年3月現在)

##### (1) 教員採用試験合格者

###### ① 1次合格者 (のべ10名)

- ・ 神戸市 4名 国語3 (人文3 3名とも大学推薦)、社会1 (現代社会1)
- ・ 兵庫県 3名 中学国語3 (人文3)
- ・ 島根県 1名 中学国語1 (人文1)
- ・ 徳島県 1名 中学英語1 (人文科目等履修1)
- ・ 岡山県 1名 中学英語1 (人文科目等履修1)

###### ② 2次合格者 (1名)

- ・ 岡山県 1名 中学英語1 (人文科目等履修1)

- ③ 私立中高、国立大学法人など（4名）
  - ・私立中高採用 3名 国語2（人文2）、社会1（人文1）
  - ・国立大学法人 国立大学附属中 1名 英語1（グローバルコミュニケーション1）

(2) 教育大学大学院進学者（6名）

① 兵庫教育大学大学院

- ・言語系コース 2名（人文2）
- ・社会系コース 1名（現代社会1）
- ・小学校コース 2名（現代社会1、法1）

② 鳴門教育大学大学院

- ・1名（人文1）

このほか、期限付き任用教員、講師などで2022年度から教壇に立つ学生が9名いる。

### 3. 教職履修学生の姿

(1) 教員採用試験対策講座 事後アンケートの結果

教職教育センターで企画した対策講座が全て実行でき、予想を超える人数の学生が参加したことは成果と言える。また講座終了後の自主的な学びを促すことができている。一部の学生は空き時間に頻繁に教職教育サポート室を利用し、教員採用試験向けの自主サークル的感覚が生まれている。

1次対策講座、2次対策講座を受講した学生に事後アンケートをとった。アンケートはmanaba上に置き、以下の3点について記述式で回答を求めた。14名から回答を得た。

- 質問1 参加した講座が有意義だった点、よかった点
- 質問2 もっとこうしてほしい、こんな内容があったらよいなどの意見
- 質問3 その他教職教育センターやサポート室に対する質問や意見

質問1の、講座に対するプラス評価の記述について、図1、図2のようにテキストマイニングツールを使用して可視化した。使用したのは株式会社ユーザーローカルが提供しているテキストマイニングツールの「ワードクラウド」と「共起キーワード図」である<sup>11</sup>。

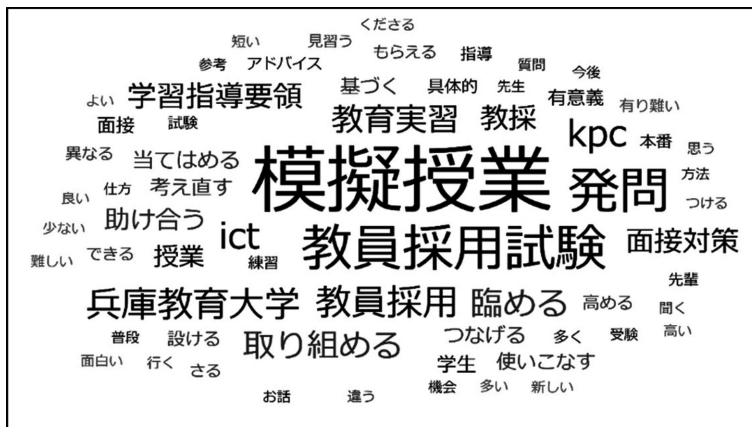


図1. 講座に対するプラス評価の記述のワードクラウド



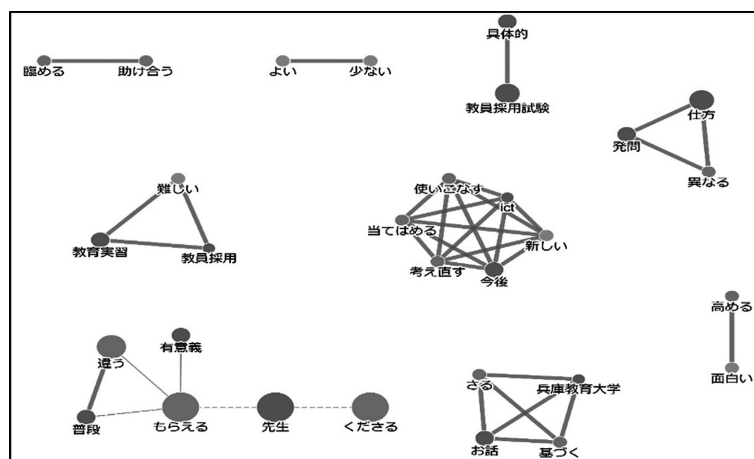


図2. 講座に対するプラス評価の記述の共起キーワード分析

「ワードクラウド」は文章中のスコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさでスコアを図示している。ここでいうスコアとは、出現回数だけでなく、重要度を加味した値であり、スコアが高い単語は、その文章を特徴づける単語として大きく表示される。図1にあるように、記述には教員採用試験に係る具体的な単語が多く出現している。また「取り組める」「臨める」といった授業や試験に対する姿勢を示す動詞も多くみられる。興味深いのは「助け合う」という単語が複数みられることである。

次に「共起」とは一文の中に、単語のセットが同時に出現するという意味である。共起キーワードの図は、文章中出现する単語のパターンが似たものを線で結んで示しており、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で示されている。図2からは、通常時とは異なる指導員から指導を受けたことを有意義に感じる学生が多かったことがわかる。またICT活用授業について言及する回答、兵庫教育大学の紹介に言及している回答も目に付く。この2点に学生の興味関心が高いことがわかる。

質問2、3に対する学生の回答は、大きく分けて以下の3点の改善点として分類できた。

- ・ 講座の指導内容やプログラムに関するもの
- ・ 講座内の指導方法に関するもの
- ・ 講座の日程や告知（運営面）に関するもの

紙面の関係で全てを掲載できないが、これらの課題や要望に表れた学生の建設的な意見を取り入れ、よりよい講座内容に繋げたい。内容を精査して2022年度の実践に生かすものとする。

## おわりに

2019年度から、教職教育センター所長はじめとする関係教員、教職教育サポート室指導員、教職担当教務事務職員が協力して教職履修学生への支援に関する改革を進めてきた。ある程度の成果や手応えはあるが、GIGAスクール構想への十分な対応や、教員採用試験合格者の低迷に対する方策など、課題はまだ残されている。今後もこれらの課題に取り組み、教員志望の学生に採用試験を通過できる知識や、教員としての資質・能力を身に付けさせ、学生のキャリア形成を支援し、教員として力強く踏み出せる人材の育成を行いたい。

注

- 1 本学教職教育センター教職課程が2019年度に策定した改革案と、2020年度までの研究実践、成果と課題については、教育開発ジャーナル第13号山下恭氏の「教職課程履修学生への指導体制構築と今後の課題－2019年度・2020年度実践報告－」を参照されたい。
- 2 文部科学省、2020「教員課程におけるICT活用に関する内容の修得促進について」中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会 第118回  
[https://www.mext.go.jp/kaigisiryō/content/20201127-mxt\\_kyoikujinzai01-000011292-9.pdf](https://www.mext.go.jp/kaigisiryō/content/20201127-mxt_kyoikujinzai01-000011292-9.pdf)（最終閲覧2022年4月2日）
- 3 教職教育サポート室は、本学のポートアイランド第2キャンパス（KPC2）と、有瀬キャンパス（KAC）に1部屋ずつ設置されており、教職教育サポート室指導員という教員経験者が曜日ごとに交替で常時勤務し、教職履修学生の支援を行っている。
- 4 文部科学省、2014「教員のICT活用指導力チェックリストの改訂について」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/05/17/1416800\\_002.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/05/17/1416800_002.pdf)（最終閲覧2022年4月2日）
- 5 開発元の㈱朝日ネットのWebサイトによれば、manabaとは「課題管理」や「情報発信」機能により授業の事前・事後の学びと、授業中の学びを支援するクラウド型の教育支援サービスとある。またレポートや評価が自動的に蓄積されるポートフォリオ・スペースを学生一人ひとりに提供する機能も持つ。本学の教職教育センターで導入し活用している。
- 6 「メンター制度」とは本学教職教育サポート室指導員による学生支援で、1人の学生に担当指導員が1人つき、いわゆる学校における担任のような役割を果たすというものである。
- 7 神戸市教育人材センターのWebサイトによれば、神戸市立学校学生スクールサポーター制度は、協定している大学と連携して、教員を目指す大学生・大学院生・短期大学生を、神戸市立の小・中・義務教育学校に配置し、学校教育活動を支援するとともに、将来教員となる人材の自覚や資質を高め、神戸市の教育力向上に資することを目的としている制度である。
- 8 2021年度、教育職員免許法施行細則及び教職課程認定基準等の改正が行われ、中学校及び高等学校の教科に関する専門的事項、いわゆる「教科専門科目」に関する科目について、他学科等の教職課程の授業科目として認定されている科目と共通開設が可能となった。
- 9 開発元のLoiLo(株)のWebサイトによれば、ロイロノートは「思考力」、「プレゼン力」、「英語4技能」を育てる授業支援クラウドシステムで、学習者が主体的に学びあう双方向授業を実現できると紹介されている。
- 10 表6の作成は、教職教育サポート室指導員の田阪義英先生と磯辺次雄先生にご尽力いただいた。
- 11 ユーザーローカル テキストマイニングツールは、文字の色でも分析結果を示すことができるツールである。本稿では印刷上色を示すことができない。ユーザーローカル テキストマイニングツール <https://textmining.userlocal.jp/>（最終閲覧2022年3月23日）